

記者会見要旨

日 時：平成 24 年 2 月 14 日（火）午後 4 時 30 分～午後 4 時 50 分
場 所：J A S D A Q－O S E プラザ記者会見場
出席者：前会長、増井副会長、大久保副会長・専務理事

冒頭、増井副会長から証券戦略会議の審議事項等の概要について、大久保副会長・専務理事から自主規制会議の審議事項等の概要について、それぞれ説明が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）

少し前の話になるが、上場している証券会社を中心に第 3 四半期の決算がまとまった。内容を見ると、やはり厳しい内容で、赤字・減益が多数を占めている。これに関する会長の所見と、業界として、また、協会として取り組むべき課題があればお聞かせ願いたい。

（前 会長）

中間決算と本決算については、日証協において会員の数字を集計して公表している。前回の中間決算では、会員の約 6 割が赤字と、非常に状況は厳しかったが、第 3 四半期では、さらに悪くなり、純損益についてはかなり膨らんでいる模様である。

これはタイの洪水などいろんな要因があり、内閣府が昨日公表した 2011 年 10～12 月期の GDP 速報値は、年率換算でマイナス 2.3% など、市場そのものが非常に悪く、こういう中での証券会社の決算であり心配をしているところである。

ただ、今日の株価は 9,000 円台に回復しており、また、為替も 78 円前後と安定的な動きが続いている状況である。この 1～3 月期で業績がすこし良くなっているというような話も聞いているので、是非良くなっていたらいいと思っている。

次に、証券市場の活性化にどう取り組むのか、具体的な戦略について、日証協はどのように考えているのかという質問についてであ

るが、これが私たちの喫緊の課題であることは間違いなく、私が協会長になったときからこの問題に取り組んできた。ご承知のとおり、「証券市場の新たな発展に向けた懇談会」を立ち上げ、利用者の方の意見を聞き、何をどのようにすればよいのか検討してきた。

昨年の7月からは金融・証券教育支援委員会の新設や行動規範委員会の位置付けの見直しを実施し、議論の体制を整えて同懇談会の提言に基づいた取り組みを進めてきているが、これらについてはすべて中長期的なことであり、即効性はなかなかない。しかしながら、こうしたことは着実にやっていく必要がある、信頼される証券市場というものを念頭において市場活性化策を考えていかなければならない。また、これらに加え、社債市場の活性化や、新興市場の活性化にも取り組むとともに、金融リテラシー向上のための教育の重要性、確定拠出年金の重要性についても訴えかけている。一方で短期的な活性化策についてであるが、これは本日の証券戦略会議でも議論するなど、積極的に検討しているところであるが、こうした場でお知らせできるようなことが出てくればお伝えしたい。

最近のわが国証券市場は、世界経済の動き、とりわけヨーロッパの債務問題や、アメリカの景気動向、中国などの新興国市場の影響を受けて、大きく変動している。そのため、リスクが取りにくくなり、リスクマネーがどんどん減ってきている。アメリカの株価がこれだけ堅調なのに日本の株価がどうして安いのかという議論があるかと思うが、とにかく円高やデフレの長期化でリスクを取る志向が非常に弱まっているというのが原因だと思う。大事なことは、国民の金融資産が日本の証券市場に向かってくるように、いかに日本の証券市場が大事であり生活にも結び付いているかを訴えていくということかと思う。日本には、年金、財政赤字、少子高齢化など様々な問題があるが、それらを解決するためにも、証券市場が活性化して、そこから活力が生まれ、日本経済が再生していく状況を作るため、日本人が日本の株式を買う、直接投資を行うという機運になってくるようにしていかなければならないが、残念ながら、現状は逆にリスクを取らない風潮になってきている。

業界のエゴのように思われるかもしれないが、証券会社の業績が

悪いからこのようなことを言っているというわけではなく、日本経済を再生するためには証券市場を活性化することが極めて重要であるということを理解してもらいたいということである。

日本を自分たちの手でよくするんだという機運を盛り上げるために活性化策をどうすればいいのか、近々お知らせできるように本協会でも鋭意検討していきたいと考えている。

(記者)

先日の東証のシステム障害によって241銘柄の売買が停止したが、会長の見解如何。

(前 会長)

システムトラブルというのは、関係者の業務に致命的な問題を引き起こすので、あってはならないことである。しかしながらこれまでも世界各国の取引所でシステム障害は発生しており、完全に排除することは難しい側面もあると思うので、そうしたときのバックアップ体制を築きあげることが大事である。今回はバックアップシステムがうまく作動しなかったということのようであるが、原因を究明して2度とこのようなことが無いようにしていただきたい。

以 上